

知事との県民対話集会（須坂市）概要

- ・開催日時 令和4年11月18日（金） 午後5時30分から午後7時まで
- ・会場 bota（須坂市子育て就労総合センター）ホール
- ・参加者 県民35人、三木須坂市長、阿部知事、中坪長野地域振興局長
- ・テーマ 須坂らしい子育て（学びの場の多様化、アウトドア・自然体験、働きながら子育てできる環境、高校再編）

・主な発言（要旨）

【参加者】

・須坂市に支援学校があるのはいいこと。児童は勉強する時間は別でも、併設している小学校の児童と休み時間は一緒に過ごしている。今担っているセンター的な機能を検証しつつ、これからどのようにしていけばよいか考えていきたい。

・発達障がいが増えているのではなく、人の間に入れられない子が増えていると思われる。学校等に行けない子については、受け入れるいろいろな場所が必要であり、行きやすい場所や相談できるスタッフがいることも大切である。

【知事】

・特別支援学校は三木市長や地域の方が、一緒に学べる場を作ろうとした成果であり、他の地域でもできないか考えていきたい。

・子どもにはたくさんの居場所が必要。子ども食堂、子どもカフェ等の取組が広がっている。居場所づくりは大切だと思っているが、県だけではできない。地域の力が重要で、そこに少しインセンティブをつけさせていただき、居場所づくりを広げていければと思う。

【参加者】

・学びの多様化で教員が多忙になっているが、県のスクールサポートスタッフの配置や未配置校への市による配置をしてもらっており感謝。

・県内で教員が不足している。教員のなり手も少なく、3年以内にやめる人が去年の倍になっている。教員はリスクマネジメントを常に考えなければならない状況で、プレッシャーやストレスが多く、若い先生の夢が無くなると心配している。県独自の対応で子どものために教育ができるよう支援してほしい。

【知事】

・教員不足やリスクマネジメントの話はそのとおりだと思う。昔は学校に子ども達が合わせていたが、今は価値観が多様化しており、仕組みに拒絶ができるのは当然。学校以外の学びの場が大切。公立は～しなければならないという縛りがあり、フリースクールは自由だがお金がないという両極端な状況。もう少し歩み寄りが必要であり、皆さんと考えたいと思っている。

【参加者】

・須坂にはフリースクールがなく、遠くのフリースクールに行くためには送迎等に費用や手間がかかり厳しい。夏の間はサマースクールを古民家で運営しており、利用者からは不定期でも続けてほしいと言われているが、人件費や運営費が足りない。補助等は3年程度でなくなってしまうため、市や県で運営費助成等のバックアップをして居場所を作してほしい。

【知事】

・フリースクールのある地域は限られ、自力では大変とのこと、そうだと思う。ふるさと寄附やみらいベースで、長野県の学びの場を応援してほしいというメッセージを出そうと思っている。やまほいくについても同じだが、皆さんにも一緒になって寄附金募集に取り組んでほしい。

・学校だけに税金を使うのがいいのかどうか。公立校に行けない子達へのサービスが提供できなくなってしまうため、子ども達がどこにいても、ある程度の支援をしていいのではと思っているが、文部科学省の規制でがんじがらめであり、小中学校は市町村の権限。三木市長とも一緒に考えていきたい。

【参加者】

・自然体験等について、自然の中から子どもが学ぶことは多く、自然の中に入り込める子は待つことができるし、いろいろなもの見方ができるようになる。先生は自然の中にも時間制限が厳しいが、子どもには時間の制限無く自然の良さを伝えて、もっとのびのびさせたい。学校は地域の鏡であり、どういう子を育てるかについて先生と一緒に考えていきたい。

【知事】

・何でも先生が負わされているようになっているが、どのようにしていけばよいか。

【参加者】

・何でも学校というのは日本の伝統だが、他の国のように、教員は子どもの学びのために動けるとよいと思う。部活動も生徒指導も保護者への対応も非常に気を遣う。そこをシフトチェンジしていかないといけない。お金やシステムの問題は、労働組合、市教育委員会、市長に話をするようにしている。

【知事】

・教育は市教育委員会、県教育委員会、市長等に権限がまたがっており、中央集権的な構造があるので、学校や保護者といった地域で話すことが重要。
・長野県は、昔は他県から先生が招かれるほどの教育県だった。今は知識はインターネットで集まるし、ただ教えるだけならオンラインでもよいが、学校や先生も変わる必要があると思う。

【参加者】

・私は学校評議員もやっているが、学校について話す組織はできても、コロナ等で実際に活動できていない。先生方も転勤してしまうので、地域のコミュニティスクールで引き継げるよう先生方と協力したい。

【知事】

・組織については関われるが、そこに魂を込めるのは地域の方。教員の費用は県と国、学校をどうするかは市町村だが、教育の中身は市の教育委員会ということになる。一番いいのは現場でやっていくこと。学校改革を先生主導でやってほしい。先生と話す機会を作り、教育の多様性をみんなで考えたい。

【参加者】

・子どもは自分の行きたい学校ではなく、行ける学校に行く。須坂に行けるところがないと須坂から出て行ってしまう。先生についても、子どもが減ったからといってそのまま減らすのではなく、型にはめない県の取組をお願いしたい。
・高校再編では、学校の跡地利用で大人も学べる場所や施設の有効活用についても考えてほしい。
・須坂創成高校は企業との協働の取組がよい。子ども達が地域に愛着をもって戻ってきたいと思うことがないと流出してしまうので、地域に特色ある学科を増やしたい。選択肢を増やしてほしい。
・子どもは大人と接する機会が少ないが、須坂では地域の住民が中学生にプロの仕事について教える取組を行っている。

【知事】

・教育委員会の所管でありあまり言えないが、子ども達のことを考えると切実なので、皆さんと一緒に考えたい。先生やPTA、地域で自分たちの学校をどうしていくかを考えることが大切。長野県では農業や林業に特色があり、全国から人を呼べる。学校を卒業したら海外に羽ばたいていけるように地域からも声を出してほしい。
・施設の有効活用については、用途廃止した後であれば知事が決めることができるため、地域の心の拠り所として一緒に考えたい。
・長野県は教育の選択肢が少ないと言われている。高校教育も多様化した方がよいと思っているが、地域や企業から（こういう教育をしようなどの）声を出してほしい。教員免許の特例を使えば一定の経験がある社会人に教えてもらうことができる。また、地域の企業等が学校の先生に教えてほしいということもあると思う。須坂の取組を参考にしながら考えていきたい。